神秘学ポエジー 風遊戯 photopos 128

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 256集】 photo ヴァージョン

photopos 3176-3200

《2023.5.20～ 2023.6.13》

神秘学遊戯団

☆photopos-3176　　2023.5.20

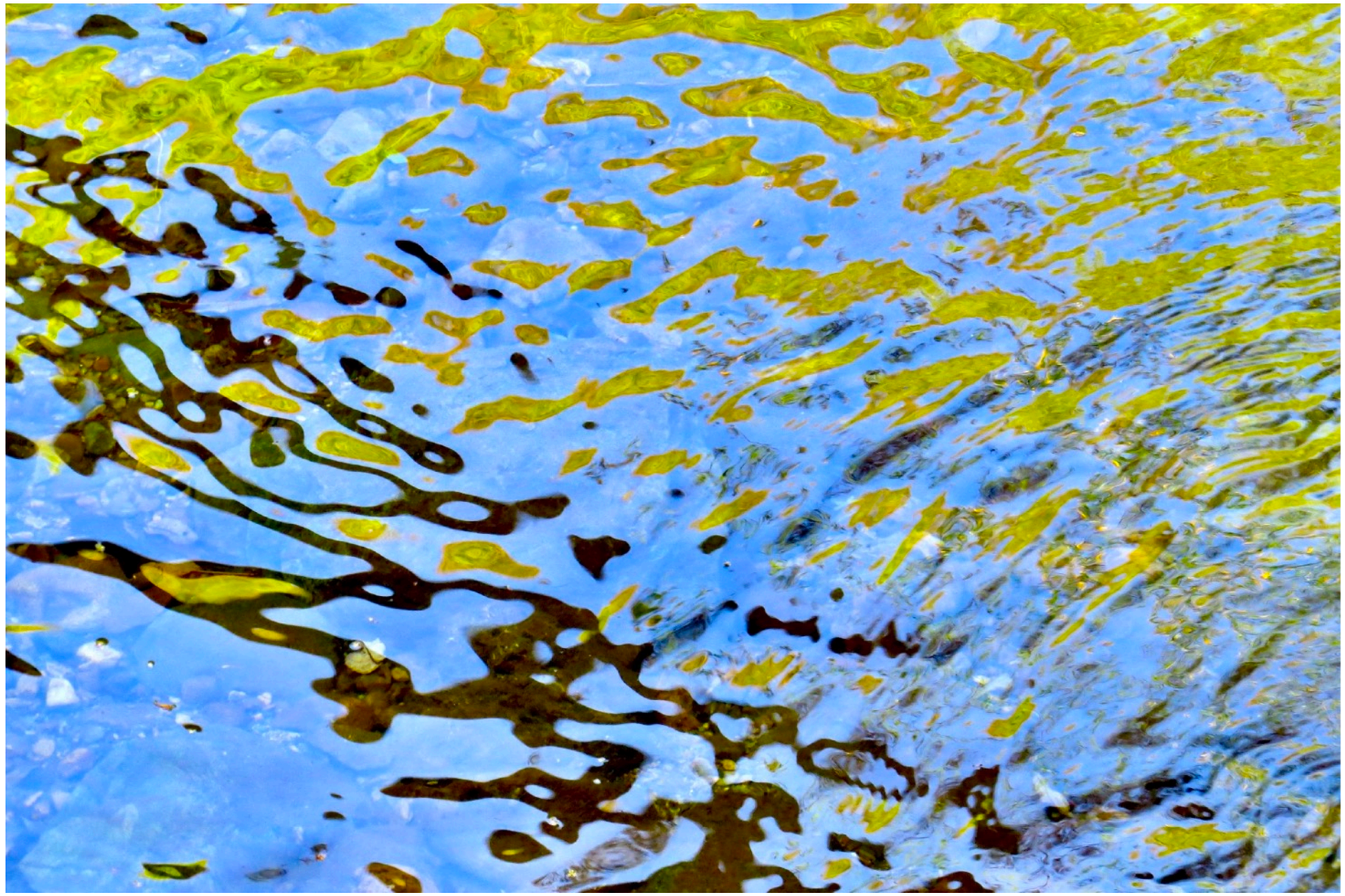
救いのために
宗教は生まれ
宗教が与える
教えのなかに
自らを閉込め
宗教のための
わたしとなり

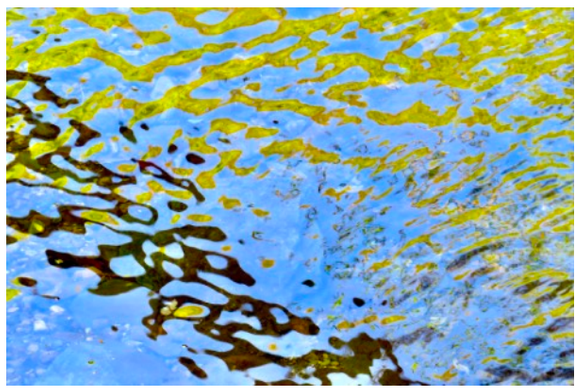
安心のために
社会は生まれ
社会が与える
規則のなかに
自らを閉込め
社会のための
わたしとなり

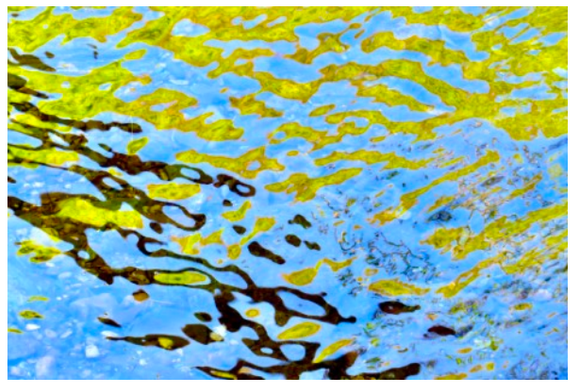
真理のために
科学は生まれ
科学が与える
明証のなかに
自らを閉込め
科学のための
わたしとなり

承認のために
他者をもとめ
他者が与える
言葉のなかに
自らを閉込め
他者のための
わたしとなり

わたしはもう
ほんとうには
遊べなくなる







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3177　　2023.5.21

記憶の向こうには
何が潜んでいるのだろう

わたしは
わたしという
小さな心を超えた
夥しい記憶を
忘れ果てることで
こうして生まれてきた

そして
いまもまた
このわたしの得てきた
わずかな記憶さえ
忘れ忘れ果てることで
こうして生かされている

それでも
ときおり
わたしという記憶の堰では
堰き止めることのできぬまま
その水が放流されてしまうことがある

小さな記憶の川で
制御可能な水位を超え
記憶が浸水してくるとき

わたしでないわたしの記憶を前に
わたしには何ができるだろう

※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3178　　2023.5.22

かつて
超えるための境界は
与えられていた

その境界を超えることで
死と再生の
イニシエーションが可能となっていた

いまやそれは
与えられるものではなくなった
境界が何であるのかを問い
みずから見出さなければならない

自由のためだ

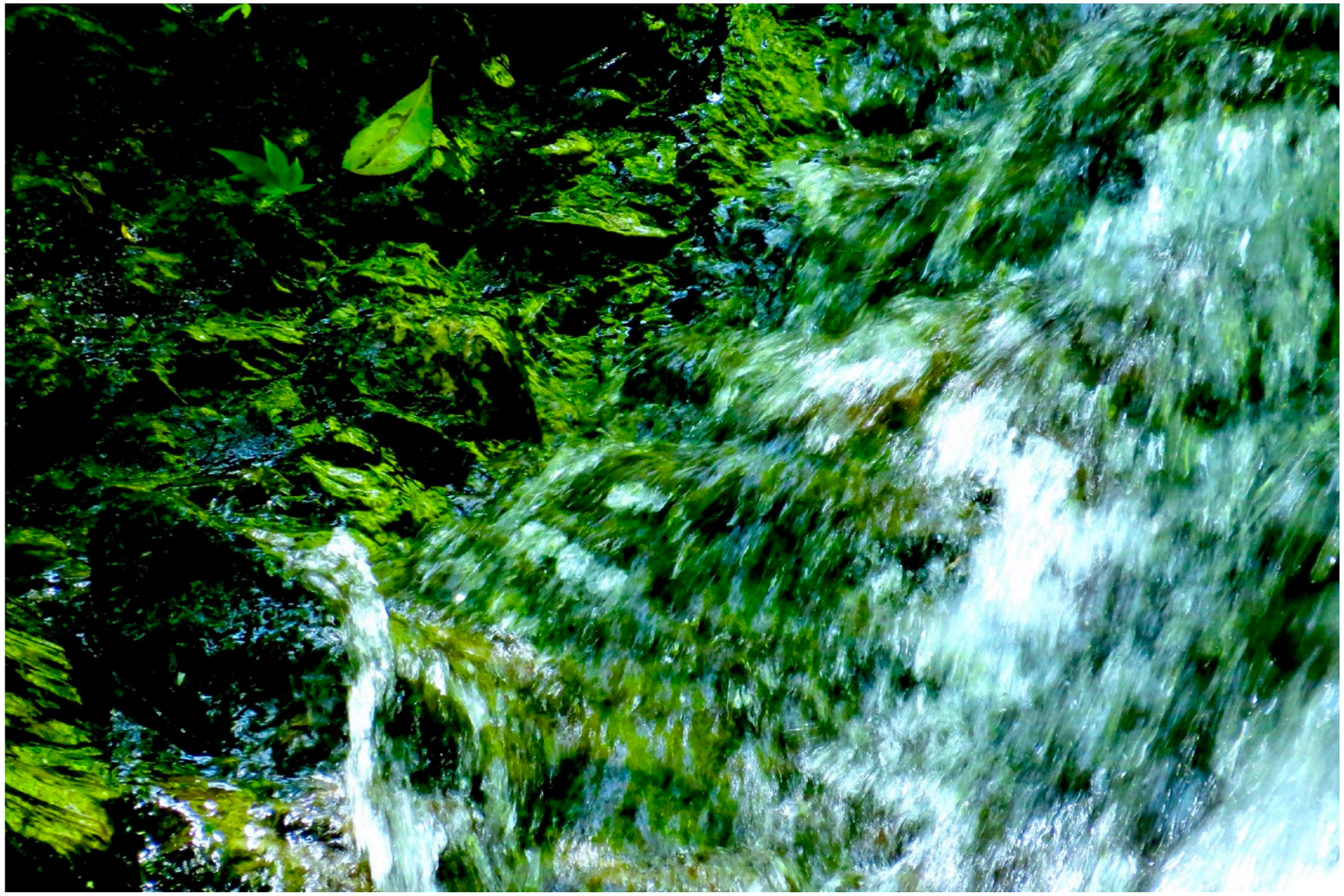
与えられ
決められた自由
拘束からの自由ではなく
問うことで
みずからが
創造していく自由だ

わたしの境界は
どこにあるのだろう

象徴的な死ともいえる境界
もっとも困難な道としての境界

わたしの死とは
何の死であり
わたしの再生とは
何の再生だろう

問いからはじまる道がある



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3179　　2023.5.23

聞こえない
音に
耳を澄ます

その音を
どう表せばいいだろう
沈黙の響きのなかで

見えない
光に
目を向ける

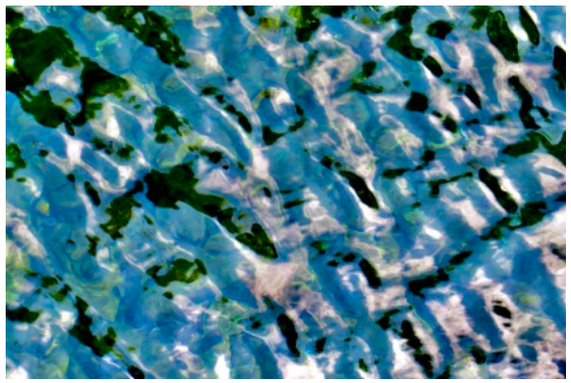
その光を
どう表せばいいだろう
闇の輝きのなかで

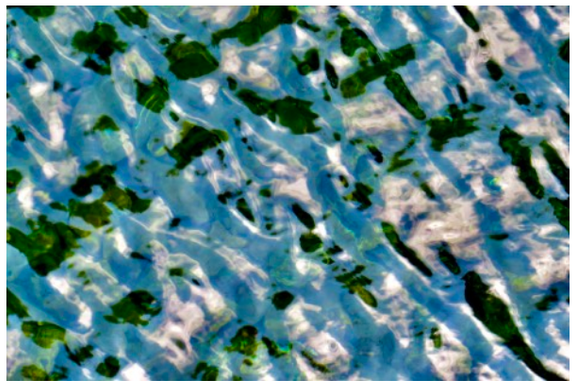
さわれない
物に
手を触れる

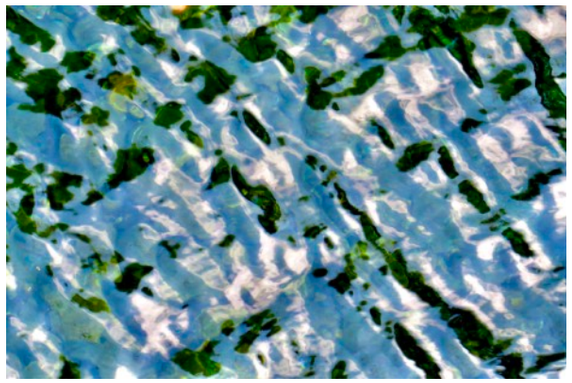
その物を
どう表せばいいだろう
虚の奥行きのなかで

考えられない
事に
心を向ける

その事を
どう表せばいいだろう
無の意識のなかで







※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3180　　2023.5.24

世界とは
いったいなんだろう

ぼくは
ぼくという
のぞき穴から
世界を見ようとする

限られた穴と
限られた時間

世界は
そのなかで
芝居を繰り広げ
やがて
穴は閉じられるだろう

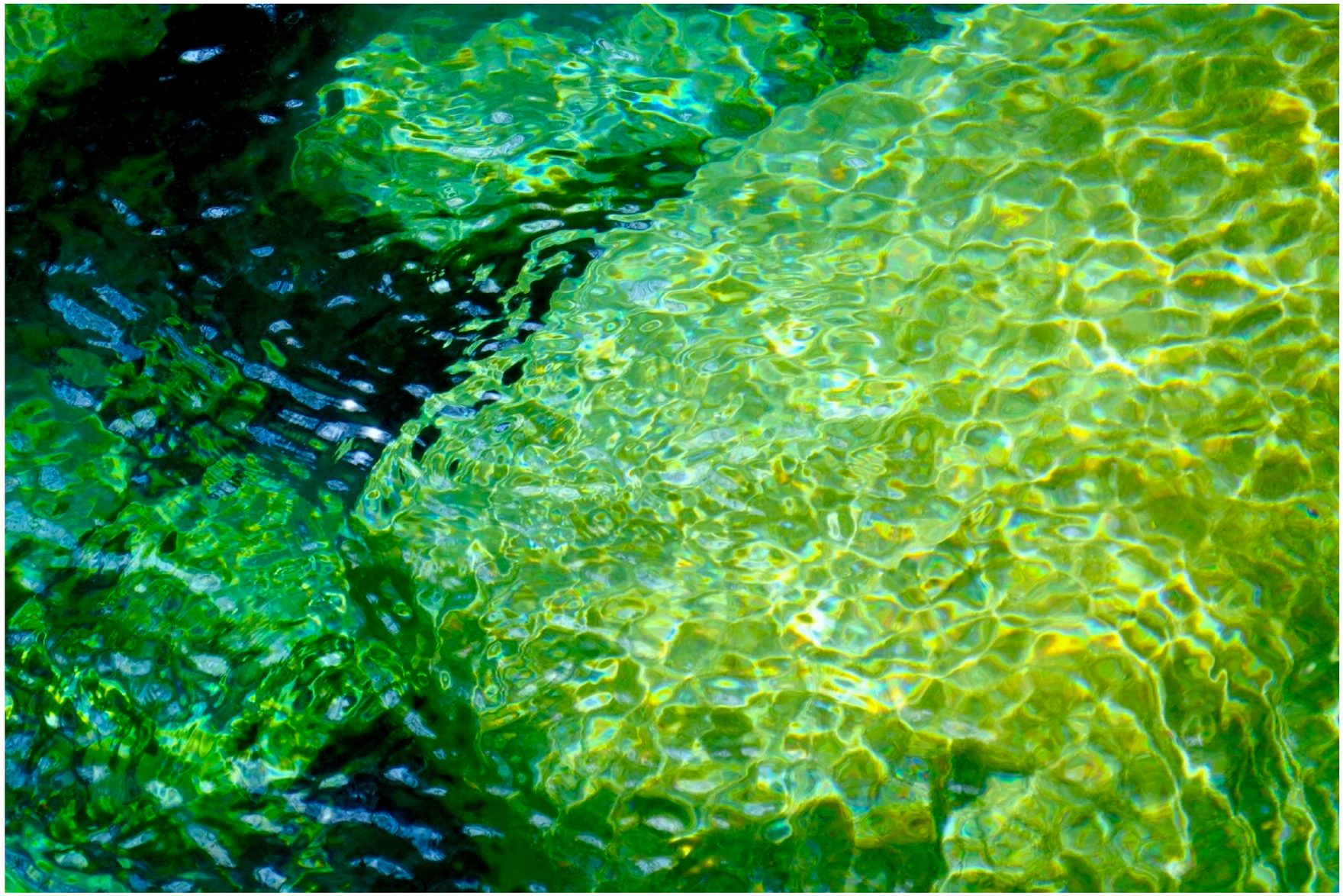
そして
ふと気づく

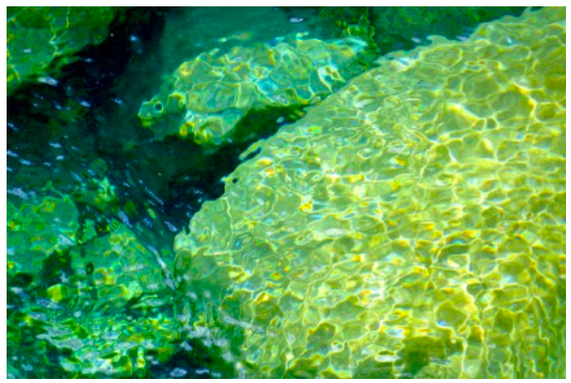
ぼくという穴は
どこにあるのか

世界こそが
その穴から
ぼくを
見ているのではないか
ぼくがなんなのかを
見ようとして

世界の穴が
閉じられるとき
芝居をやめたぼくは
なにをするだろう

舞台の外で
ぼくはやっと
じぶんに帰るのか





※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3181　　2023.5.25

考えているか
たしかに
じぶんで考えているか

その考えは
与えられているのではないか

考えるのではなく
考えさせられているとき
ひとはその考えに
支配されることになる

感じているか
たしかに
じぶんで感じているか

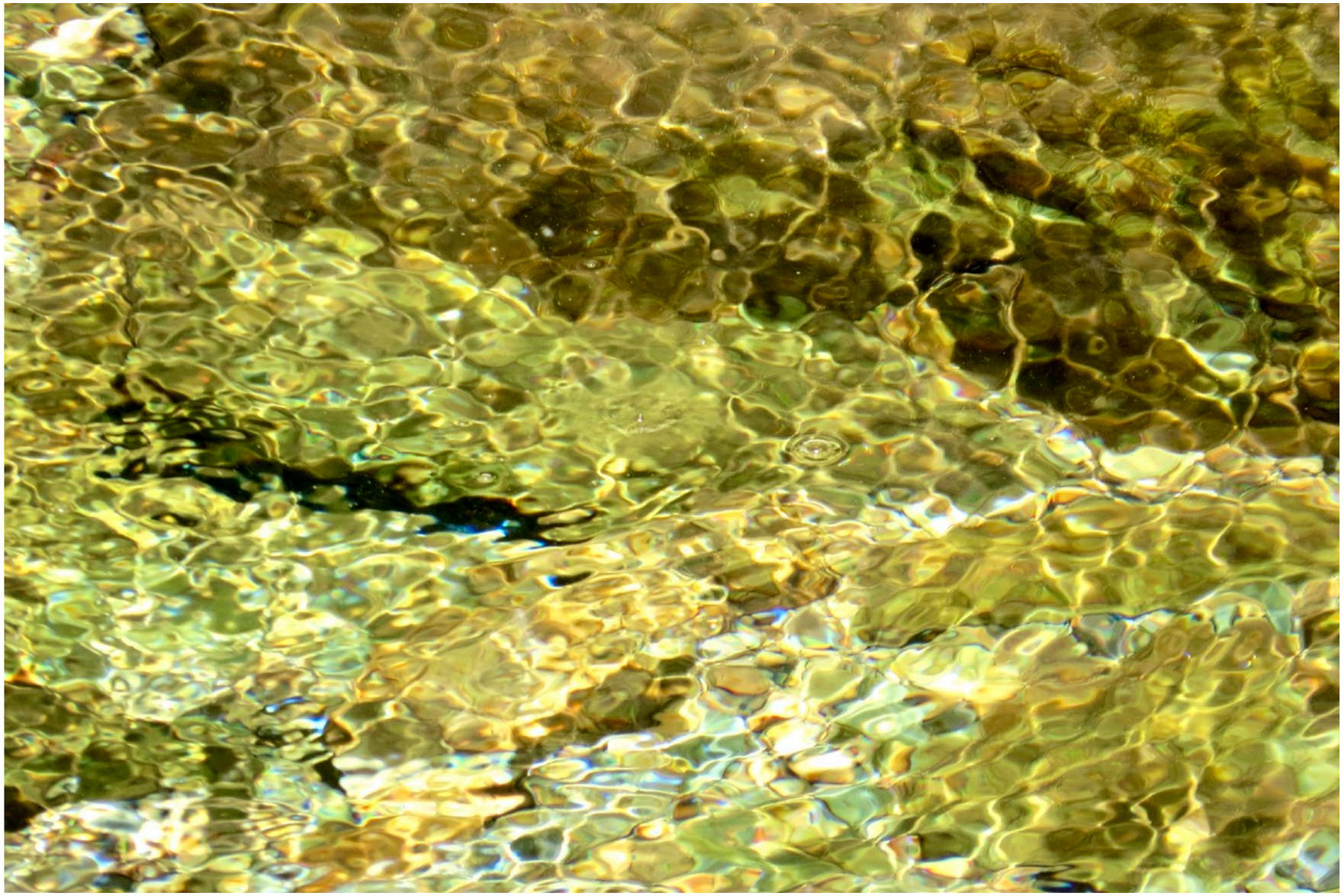
その感覚は
与えられているのではないか

感じるのではなく
感じさせられているとき
ひとはその感覚に
支配されることになる

求めているか
たしかに
じぶんで求めているか

その望みは
与えられているのではないか

求めているのではなく
求めさせられているとき
ひとはその望みに
支配されることになる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3182　　2023.5.26

岸に寄せる波は
海のはしっこであるように

ことばにできるのは
世界のほんのはしっこで

役にたつことばも
ことばのほんのはしっこなのに

役に立つことばだけしか
わからなくなるとしたら

波のことも
海のことも
そして空のことも
わからなくなってしまうように

わたしという現象のことも
その心が描き出す模様のことも
そして
わたしを超えたわたしのことも
わからないままになってしまうだろう

※愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-3183　　2023.5.27

自由に生きることと
本能で生きること

それは矛盾しているのか
深みでつながっているのか

だれにも教わらないでも
生まれつき身についている能力を
本能と呼ぶのだろうが

ひとは動物や虫たちのように
特定の決められた能力として
それが働くことは少ない

能力を発現させるためには
それなりの環境と
能力を育てるための
長いプロセスを要するからだ

身体的な潜在能力の幅は
個体ごとにさまざまだが
もっとも必要とされるのは
能力を育てるためのプロセスを
発現させようとする動機
そしてそれを現実化する持続的な力だろう

おそらく
ひとの自由は
その動機と力に関わる

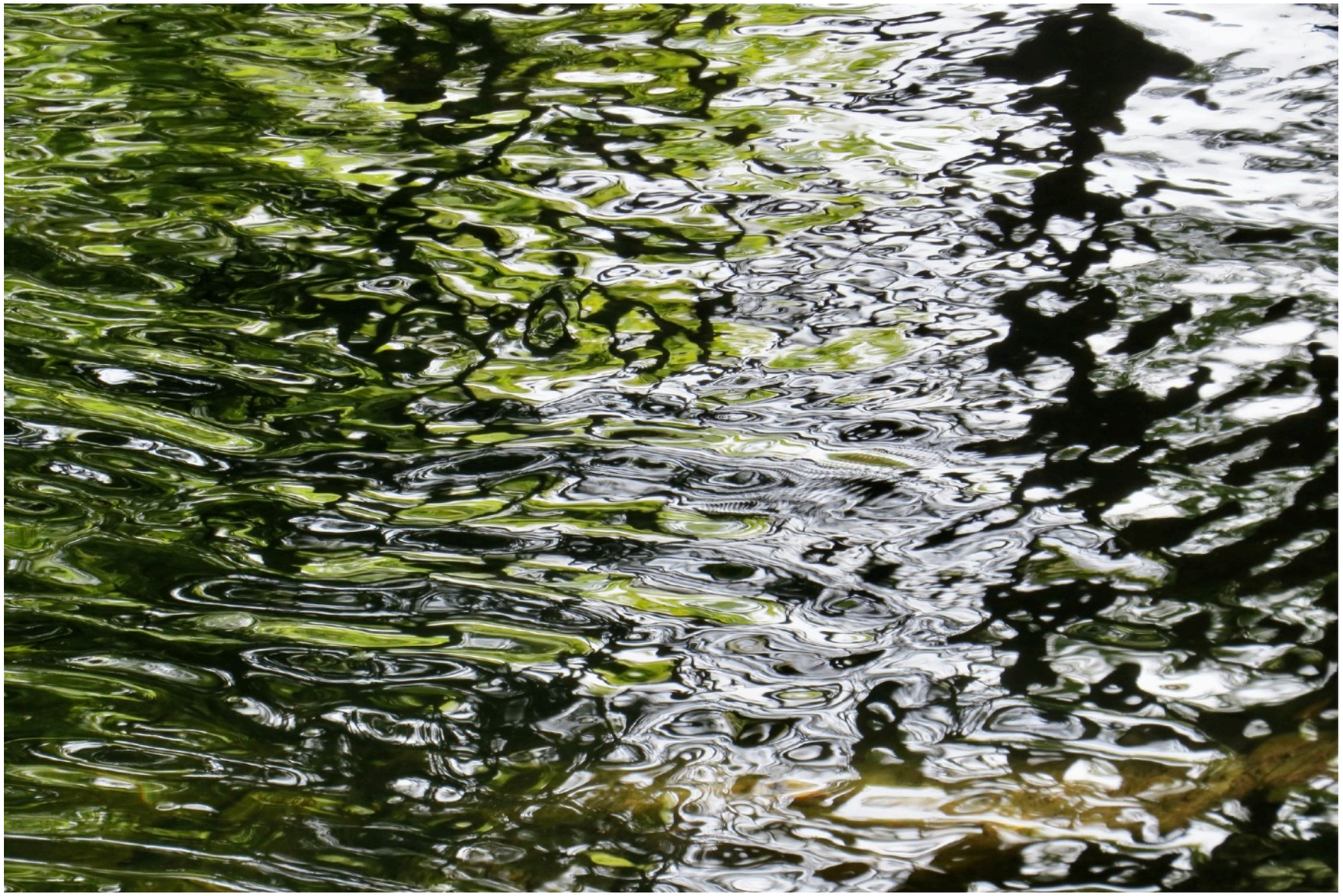
条件が揃っていたとしても
その気になって取り組まなければ
どんな力も現実化することはできない

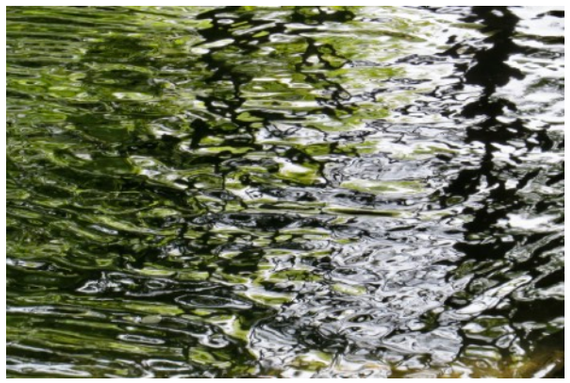
そしてひとは自由において
行使できる本能を
個体の魂として
時空を超えて準備してきている

そしてそれこそが
自由の種としての
魂の本能だともいえるのかもしれない

さてわたしは
どんな種を蒔いてきたのか
そしていま
どんな種を蒔いているのか

自由のために





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3184　　2023.5.28

生から
死を見るとき
死は異界に見えるが

死から
生を見るとき
生こそが
異界に見えるのではないか

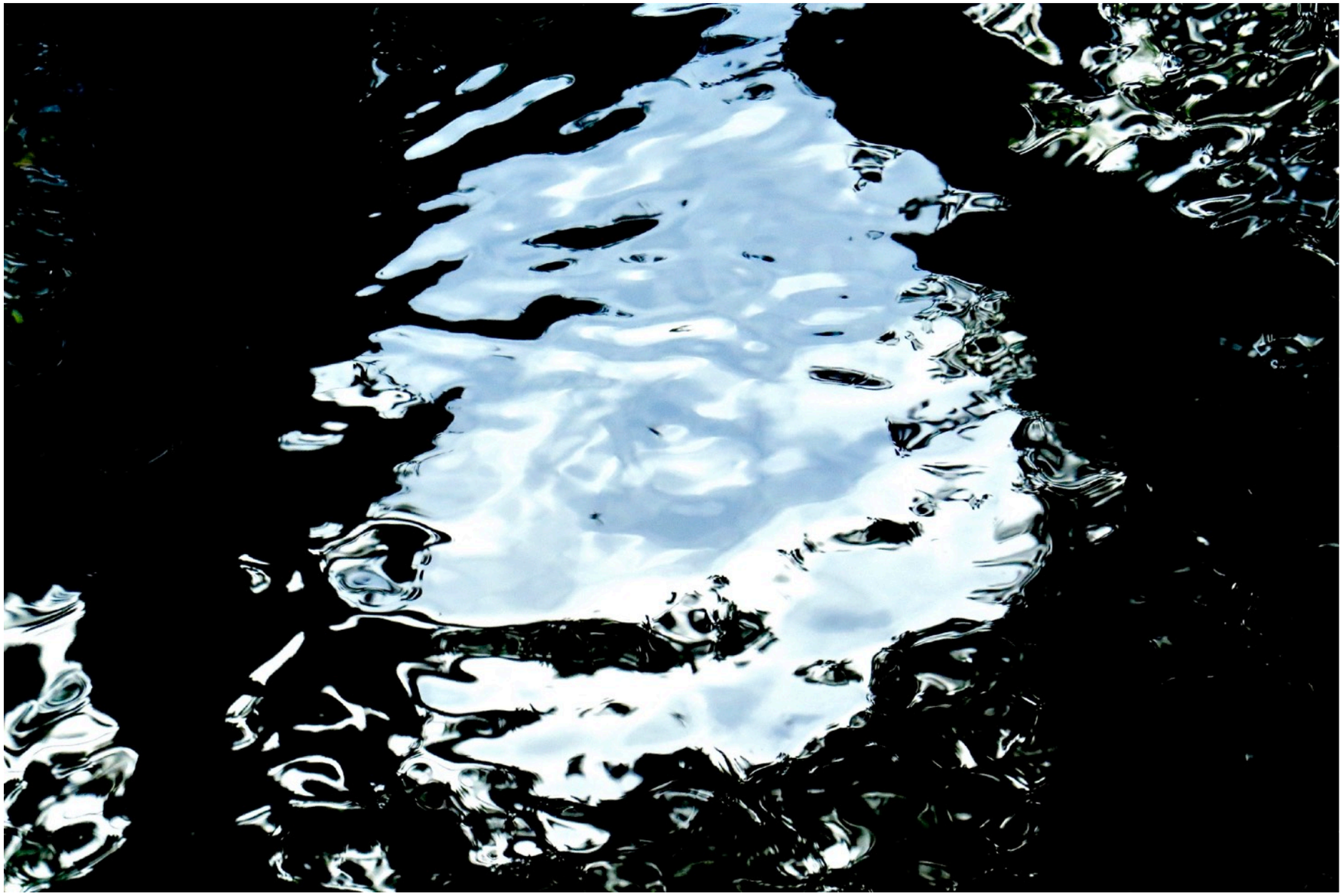
現実という
生の異界に
わたしの居場所はあるか

現実の底が抜けたとき
そんな想念のなかを
生きざるをえなくもなるのだが

夢と現がそうであるように
意識と無意識がそうであるように
そして
偶然と必然がそうであるように

死と生は
その相を異にしながら
ほんとうとところ
深く通底している

ならば
それらすべてを
歩み通していくのが
真の神秘学遊戯ではないか



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3185　　2023.5.29

イワンのばかの話は
知っていても
だれもばかになろうとはしない

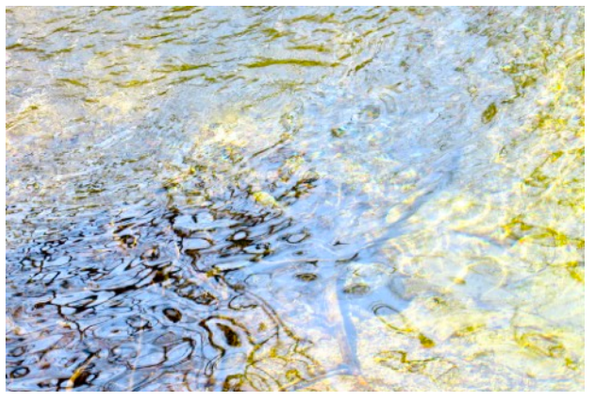
知的だと
教えられたことに
教えられたように従う
ばかにみられるのは
いやだからだ

雨にも負けずは
知っていても
だれもデクノボーになろうとはしない

得になるとされた
生き方を求め
勝ち組と呼ばれようとする
雨にではなく
ひとに負けたくないからだ

ひとは
知らないことを
知らないでいることに
気づけないでいる

そのとき
悪魔がささやきかけてくる
ばかにされないやり方を
教えてあげようと



※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3186　　2023.5.30

なにを
求めるのか

なぜ
求めるのか

その先には
なにがあるのか

それは
どこへ
向かうのか

ひとは
欲望のレッスンのために
生まれてくる

足りないから
求めるのか

足りるということは
どういうことなのか

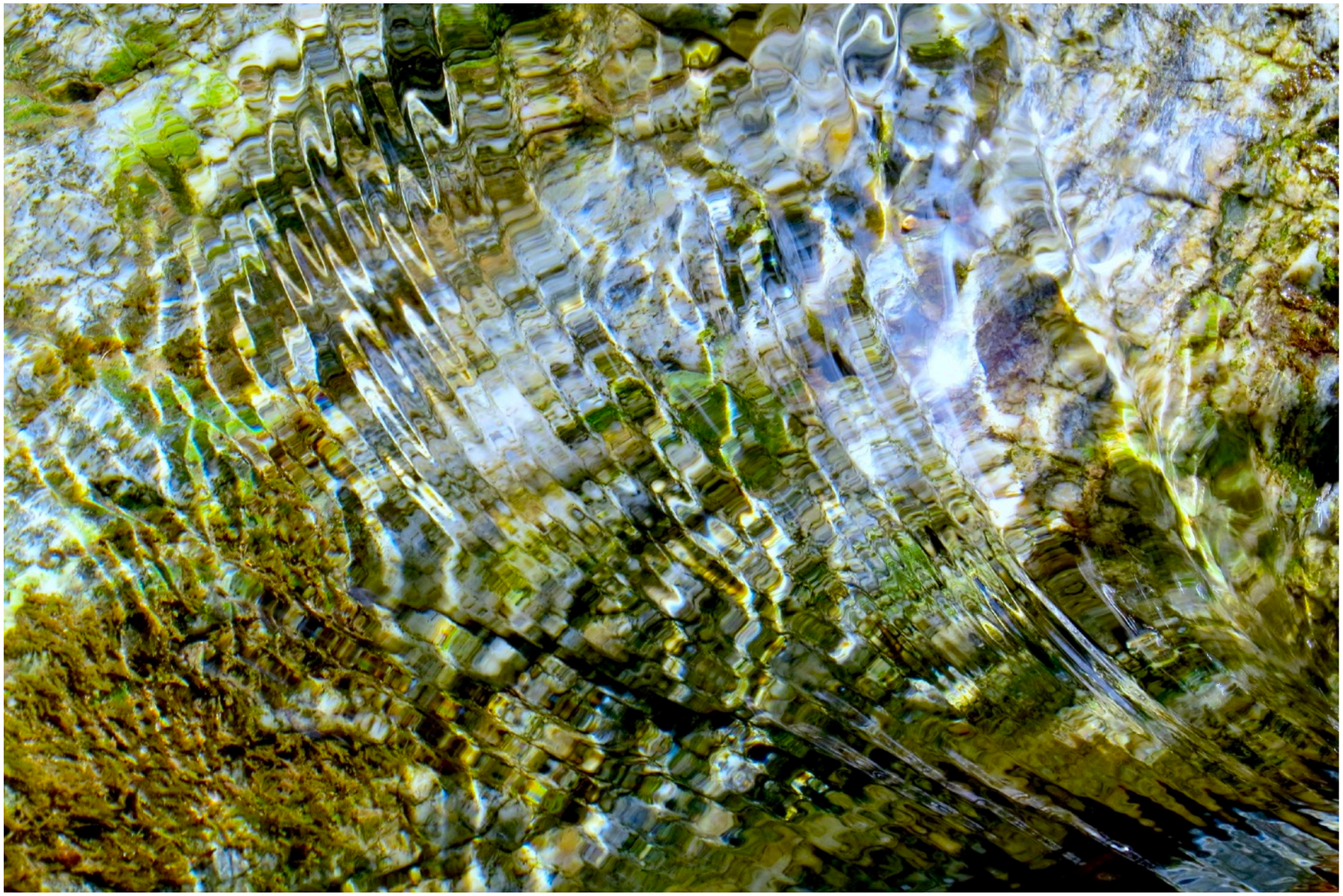
足りるためには
どうすればいいのか

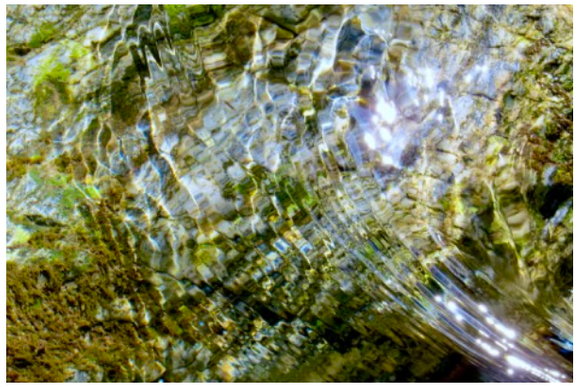
求めても
求めても
求めきれず

果てしなく
求めるさきには
なにがあるのか

欲望のレッスンの
終わるとき

欲望は
どんな姿に変わるのだろうか





※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3187　　2023.5.31

わからないから
おもしろい

わかると
もっとわからなくなる
それがまたおもしろい

おしえられると
つまらない

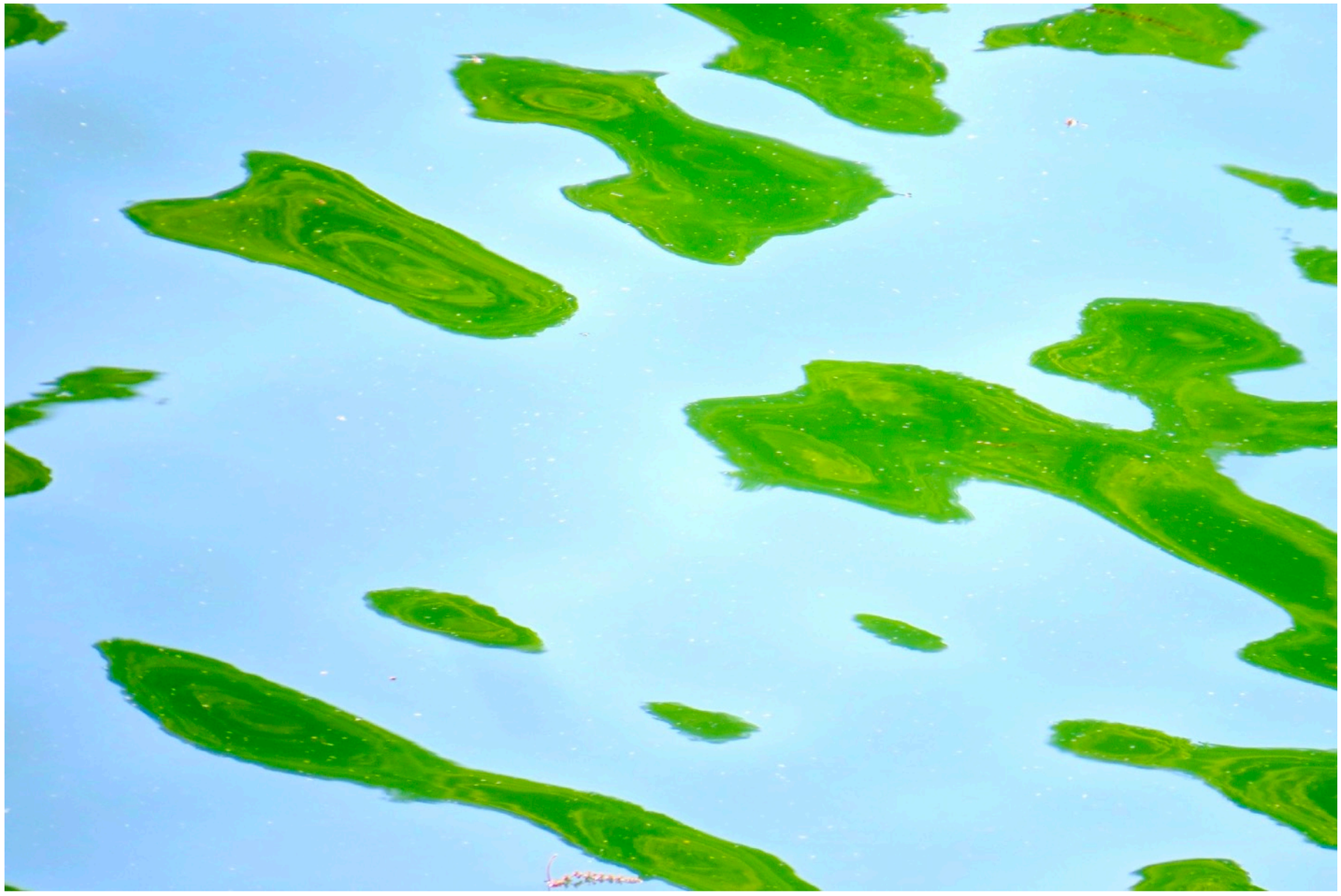
だれかのこたえを
くりかえすのは
ぼくじゃなくていい

まちがえることも
おもしろい

よりみち
みちくさ
さんぽみち

いらないことは
ひとつもない
むだなことも
なにひとつない

さきをいそいで
どこへゆく



※愛媛県伊予市えひめ森林公園にて

☆photopos-3188　　2023.6.1

天使にせよ
悪魔にせよ

それを降ろし
憑かれなければ
演じることはできないが

招くにも
戻っていただくにも
それなりの作法が要る

ひとには
身体と心があって
演じるのは
身体だとしても

そしてそのために
心さえそれなりに
憑かれるとしても

演じるのは
舞台の上だけなのに
戻っていただけないこともある

作法が効かず
憑かれたままで
舞台を降りてからも
狂気を演じてしまうのだ
演じているという心さえなくして

※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3189　　2023.6.2

わたしが水だったら
どんな生き方をするだろう

地球という星とともに
ずっと生きてきて
これからも
この星のあるかぎり
生きていくとしたら

川となり
大地を削り
河口を埋め
海へと向かい

やがて
空へと舞い上がり
再び大地へ降り注ぎ

すべての生物を生かす源ともなりながら
あらゆる形をつくり
さまざまなものたちと
めくるめく変化をくりひろげ

そんなめぐりのなかで
かぞえきれない物語が
生まれては消えていき

※愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3190　　2023.6.3

見る
その果てに
観る
が訪れる

見るだけでは
認識の地平は
超えられない

それが
それであることを
証すことのできる
そんな地平へ

ものが
みずからを
語りはじめる
そんな深みへ

そのとき
観るわたしもまた
わたしが
わたしである
そのヴェールを
外しはじめるだろう

そのとき
顕れる世界もまた
世界が
世界である
そのヴェールを
外しはじめるだろう

※愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-3191　　2023.6.4

わたしたちは
ひとりひとり
見える世界が異なっている

わたしに見えるのに
あなたには見えないものがあり
あなたに見えるのに
わたしには見えないものがある

なにが見え
なにが見えないのか

見るためには
わたしたちの内に
見られるものを
照らしだす光を灯さねばならない

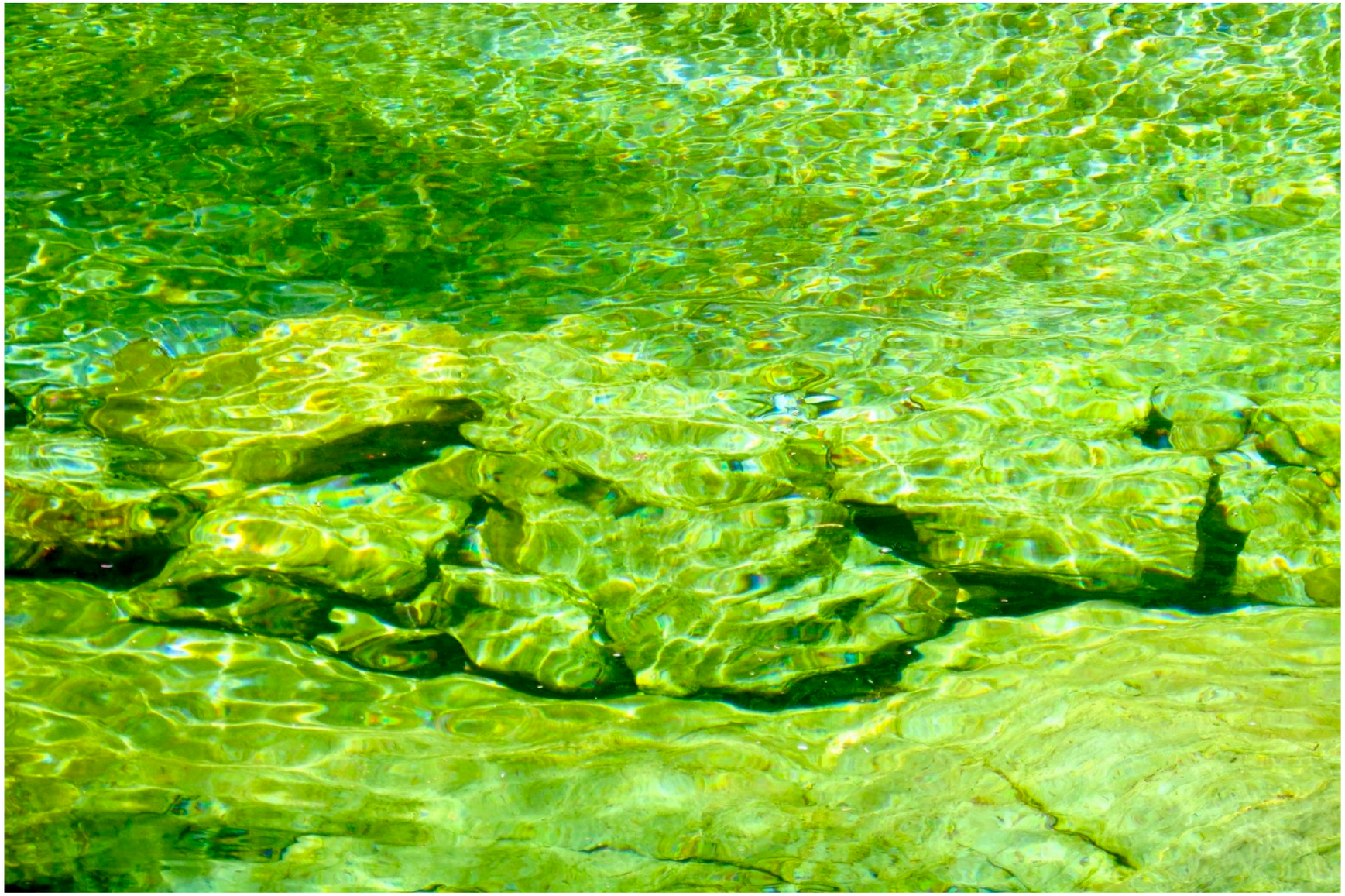
見えるものが
わたしたちの生きた世界となるからだ

見えないものを
見ようとして
わたしたちは
光を求めるのだが

与えられた光は
与えられた知識のように
借りものの光にすぎない

借りものの光で照らされた世界は
借りものの世界にすぎず
じぶんの生きた世界ではない

たとえそれが
どんなに小さな灯りだったとしても
みずからの光で世界を照らすとき
はじめてじぶんの世界が
そこにあらわれる



※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3192　　2023.6.5

ふつうは
どこに
あるのだろう

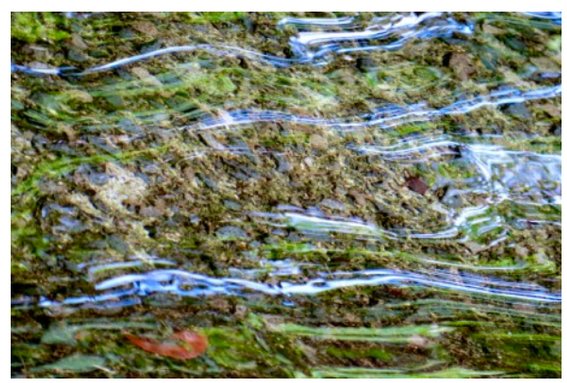
ふつう
なんて
どこにもないのに

ふつうが
お化けになって
百鬼夜行している

はだかの王さまを
はだかだ
という子どものように

ふつうというお化けを
お化けだ
といえればいいのに

ふつうは
ふつうの顔をして
王さまのように歩いている



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3193　　2023.6.6

愛が
生まれるためには
わたしはあなたではなく
あなたはわたしでではない
という
差異ゆえの磁石が必要であるように

対話が
生まれるためには
わたしとあなた
という
差異ゆえの磁石が必要となるだろう

そこに
みんなという
わたしたちしかいなければ
そしてそれ以外が許されていなければ
トートロジーのような
言葉の交換がなされるばかりだろう

※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3194　　2023.6.7

こうなんじゃないか
と思っても
やってみると
たいていは
どこか間違っている

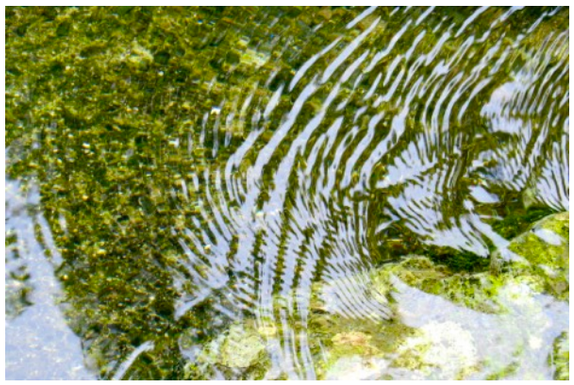
けれども
間違ったら
ほんとうは
こうなんじゃないかと
やりなおせばいい

なんどもなんども
やりなおすうちに
コツをおぼえてくる

間違うことで
べつのなにかが
見つけられることもある

間違った道が
ほんとうは近道だったり
ステキな花に出あえたり

ぼくはたぶん
そんな間違いだらけで
できているけれど
間違うことでしか
見つけられない自由を生きている



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3195　　2023.6.8

思考を
機械が情報編集し
代わって考え

生命を
医者が数値化し
ひとを診ないように

数えられないものさえ
数えてしまう時代には

心は
アンケートで
集計評価され

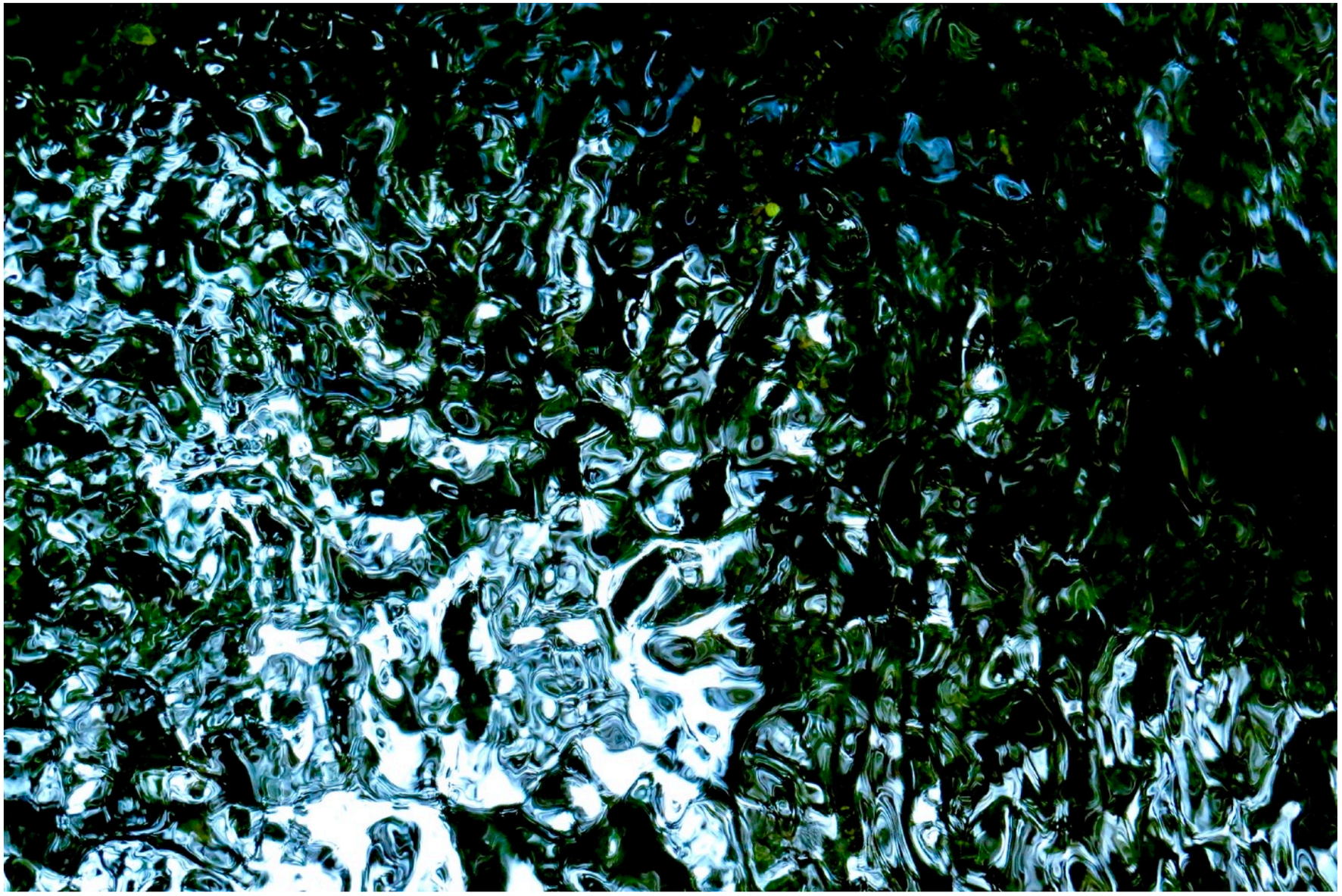
好きか嫌いかさえ
数値化されるようになり

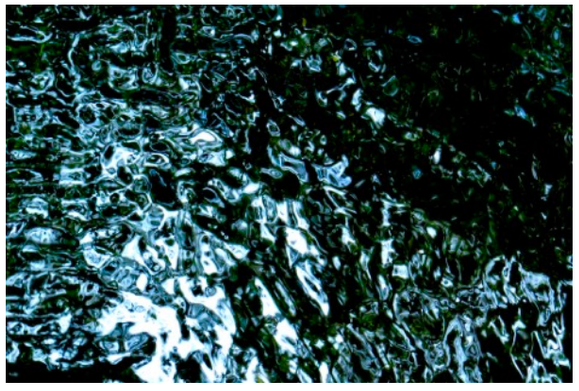
教えられた問いに
教えられた答えを覚えるばかりで

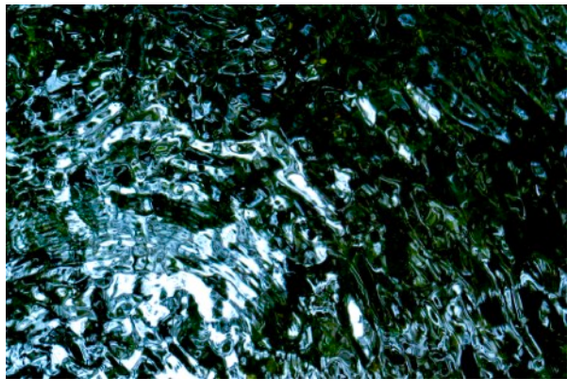
新たな問いは
もう生まれなくなってしまう

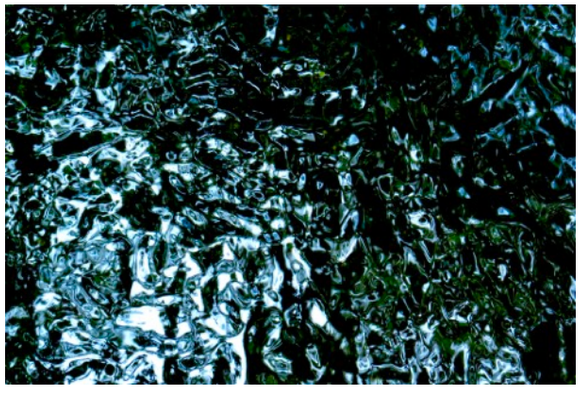
けれどやがて
数えられないものが
求められるようになる
そのときこそ

未知の問いは
深い眠りから
目覚めはじめるだろう









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3196　　2023.6.9

生まれてくれば
ジャジャンカ　ワイワイ
死んでいくのも
ジャジャンカ　ワイワイ

死を恐れはじめたのはだれだ
生きていくことのほうが
ずっと恐ろしいはずなのに

生まれてくれば
ジャジャンカ　ワイワイ
死んでいくのも
ジャジャンカ　ワイワイ

生は死にふれられず
死は生にふれられず
離れて互いににらめっこ

生まれてくれば
ジャジャンカ　ワイワイ
死んでいくのも
ジャジャンカ　ワイワイ

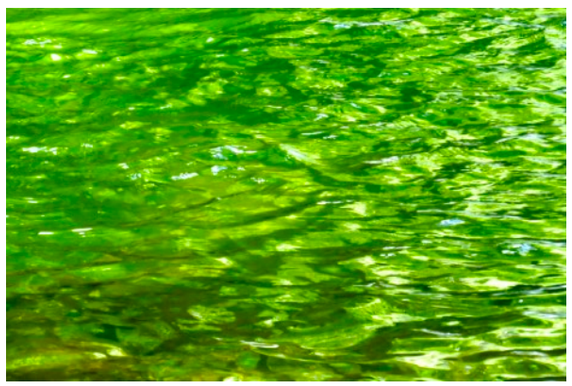
生の国と死の国を
隔てたのはだれだ
ほんとうはこんなに近しいのに

生まれてくれば
ジャジャンカ　ワイワイ
死んでいくのも
ジャジャンカ　ワイワイ

けれどわれらは
生きねばならぬ
生の国でしか咲かない花のために

生まれてくれば
ジャジャンカ　ワイワイ
死んでいくのも
ジャジャンカ　ワイワイ

けれどわれらは
生きていかねばならぬ
生の国と死の国をつなぐために



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

※ジャジャンカ　ワイワイ
（入沢康夫「失題詩篇」（詩集『倖せ　それとも不倖せ』正篇I　より）

☆photopos-3197　　2023.6.10

考えること
それは
与えられた答えを
求めることじゃないから

目的地へと
ナビゲーションしてくれるような
そんなツールにはならない

自由な線を
描きはじめるように

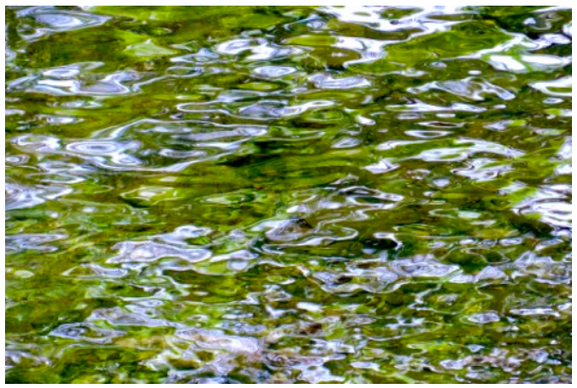
考えは
いままさに生まれ
あるいは訪れ
流れながら姿を変えつづけ
予測することなどできはしない

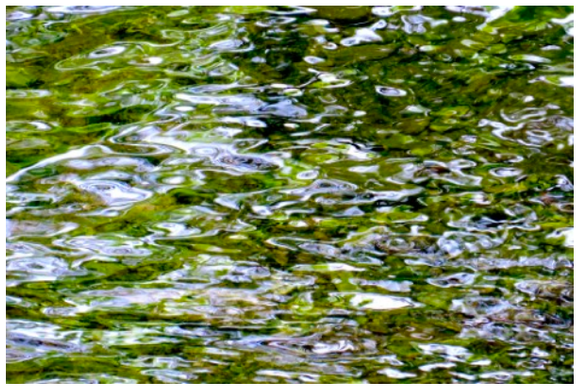
描かれていく考えは
アートにもなり
詩にもなり
歌にもなるが

即興ライブのように
問いが答えになり
答えはまた問いになり

世界と応答しながら
つねに新たに生まれていく

そして
その動きが止まったとき
考えは死を迎えている





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3198　　2023.6.11

なにが正しく
なにが間違っているのか

わからなくなるときは
わからないままでいる

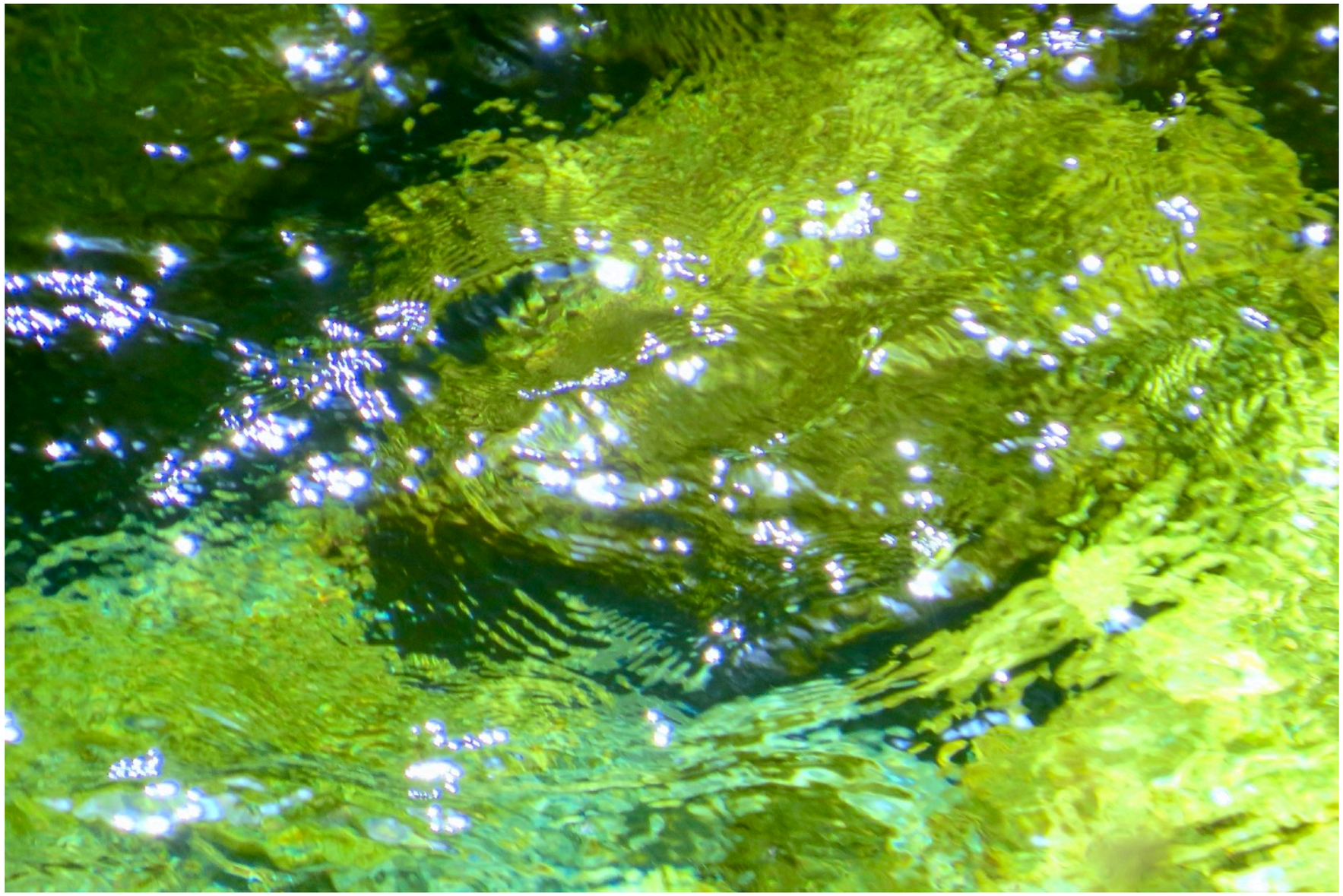
それまで
寄りかかっていた
権威から自由になるために

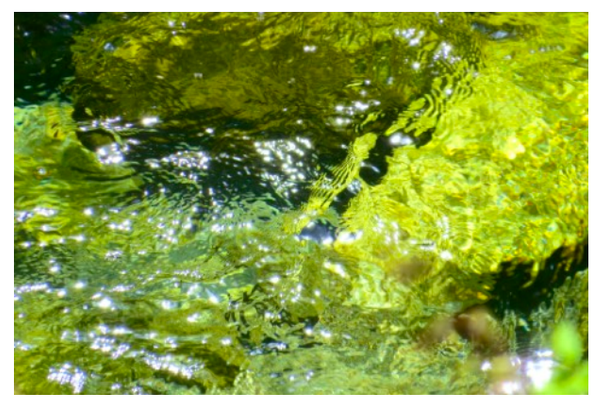
それまで
信じていた
正しさや間違いを
問いなおすために

権威を信じ
それを身に纏い
賢くなった貌をしても
悲しいマリオネットになるだけだから

そのことに気づいたら
権威を笑う道化になるのもいい

道化になるのが面倒なら
じぶんの道をただ歩くのがいい
たとえ前に道は見えなくとも





※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3199　　2023.6.12

あなたの
心が
わからない

わたしの
心さえ
わからない

心とは
なにかも
わからない

いつの
まにか
心はあって

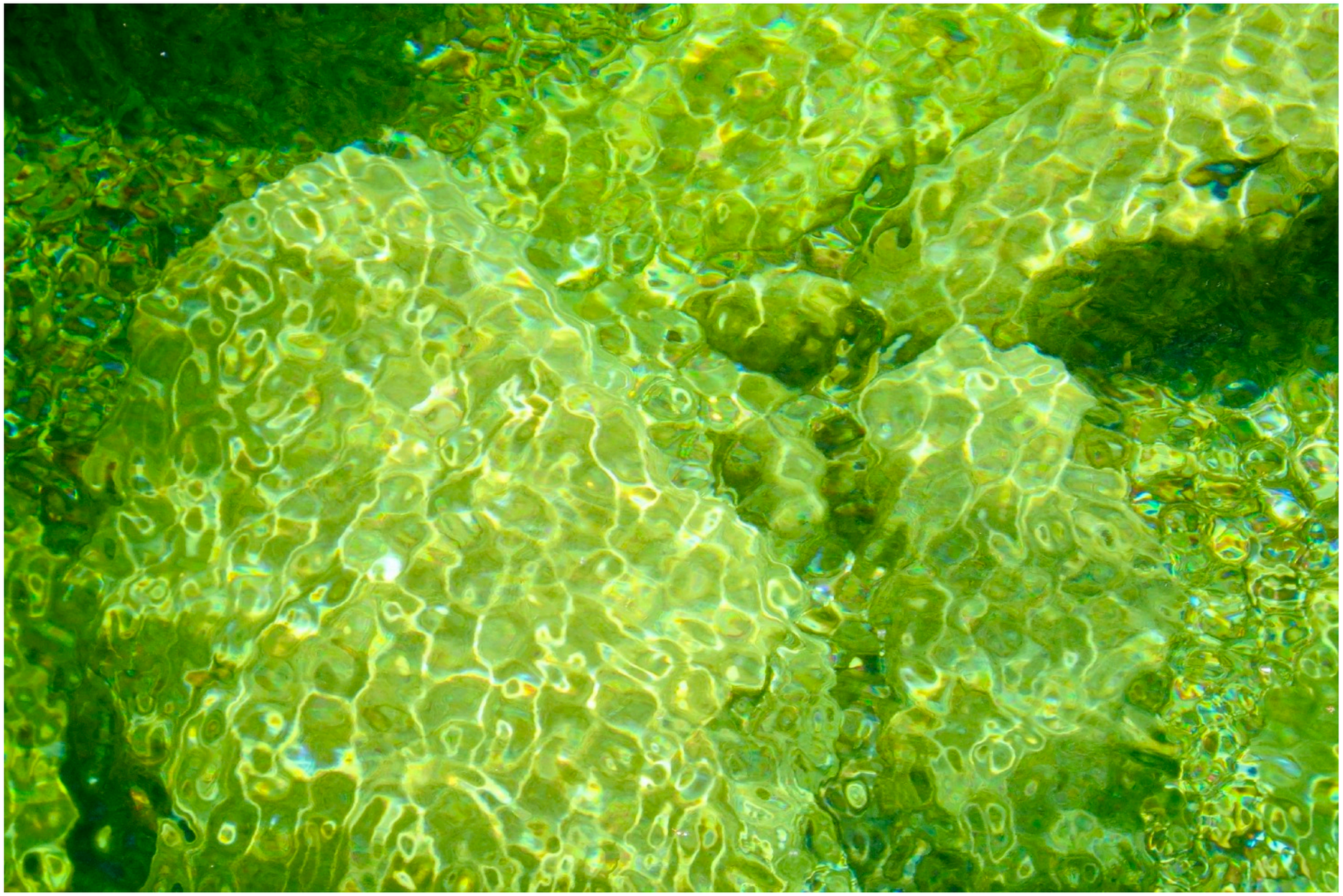
あちら
こちらと
ゆれうごき

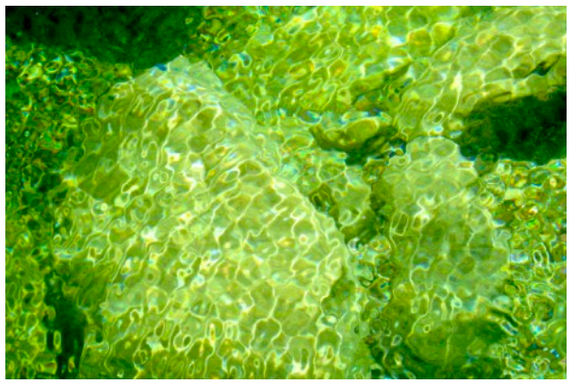
ゆくえを
さだめる
すべもなく

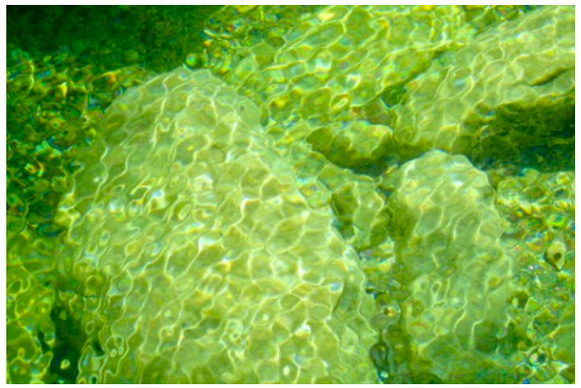
心を
すてる
すべさえなく

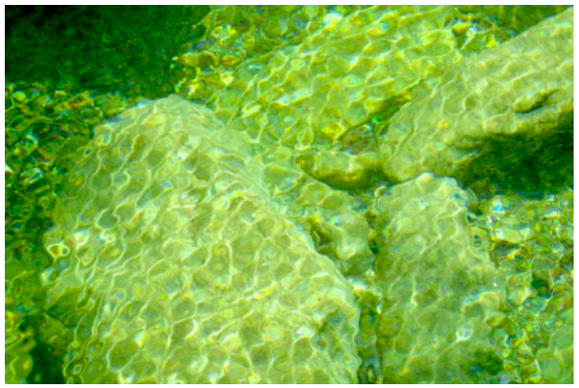
心を
うつす
鏡のなかで

わたしは
見果てぬ
夢を見る









※愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3200　2023.6.13

白で
ありつづけよう
とするとき

ひとは
じぶんのなかの
黒から目を逸らし

白と黒しかない
世界から抜けられなくなる

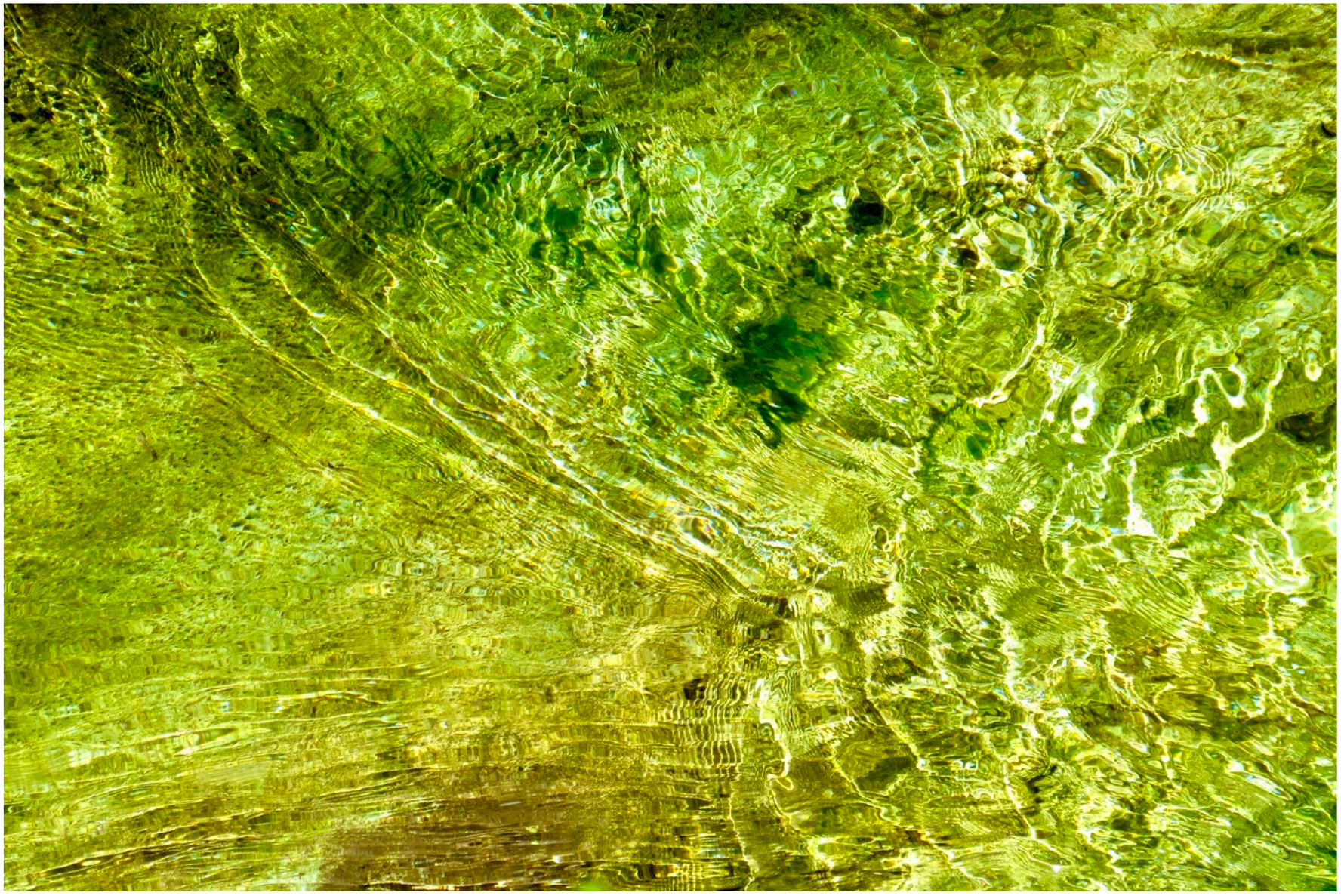
真で
ありつづけよう
とするとき

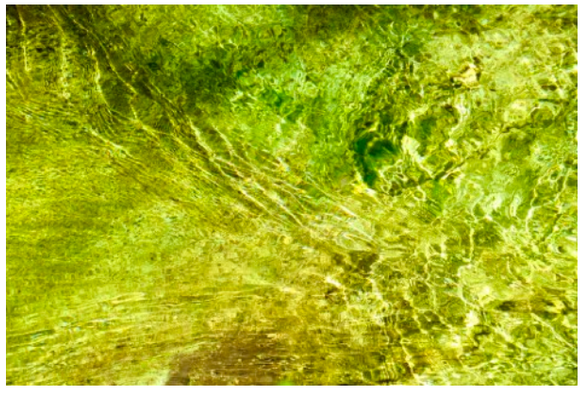
ひとは
じぶんのなかの
偽から目を逸らし

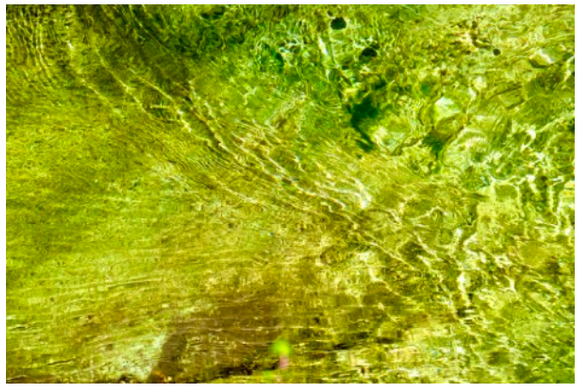
真と偽しかない
世界から抜けられなくなる

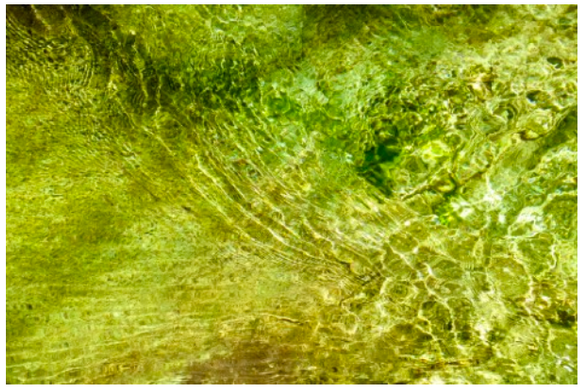
生きることは
純粋な世界を脱け
矛盾のなかで遊戯すること

泥のなかから
花が咲くように
変わりながら
変わらないものを育てることだ









※愛媛県久万高原町・面河渓にて